

— 受講機は何ですか？  
 早田 子ども頃、祖父の家によく遊びに行きました。山奥にあって、新で五右衛門風呂に入ったり、炭の掘りごたつでご飯を食べたり、正月は石臼で餅をついたり。朝は牛の鳴き声が目覚まし代わり。山里の暮らしの思い出が自分の原風景の中にあるから、里山大学OGの方から教えてもらおうとすぐに申し込んだじやないですか？

— 里山大学での経験を今後どう生かしていきたいですか？  
 早田 子どもがまだ小さいので実地での活動は難しいんですが、今勤めている会社は自然に関する活動にも積極的なので、里山保全の活動をメディア発信したり、商品化したり。そういう提案をしていければいいと思いますね。

— 思い出の写真を1枚！  
 早田 妙見山のブナ林かな。木漏れ日に癒やされるし、自然とともに人の信仰心があるって残されてきた森っていうのが心に響きましたね。

— あなたにとって「里山」とは？  
 早田 里山は自分自身だと思えます。自然の中で暮らすことで私たちの身も心も作られてきたんだなっていうのを里山大学で学びました。現代人の暮らしは里山と切り離されて、大切なものをおざなりにしてしまってます。それではだめだから、自分自身も子どもたちも未来につながっていくためには、里山は絶対になくしたらあかんものやなって感じています。

— 早田さんの1枚  
 森全体が明るく光が心地よくて、この写真が一番です。

## 山里の暮らしの思い出が自分の原風景。

— 特に印象深かった講座は？  
 早田 やつぱり最初の講座ですね。学長から里山放置林の話聞いて、今まで田舎の風景を見て「これが里山だ」と思っていたものが、実は放置されているっていうのがショックで。里山をなんとか保全していかないといけない。そういう問題意識が自分の中に芽生えましたね。

— これからの受講生に一言  
 早田 ちょっとでも自然や里山に興味のある方とか、時間が許せば子育てしている方とか、もつと若い人たちにも受講してもらえたらいいですね。

— 伐採作業はどうでした？  
 木戸 伐採は楽しくて没頭してしまいました。

— 木戸さんの1枚  
 初夏の陽を浴びながら斜面の下から撮りました。

— 木戸 この樹は何だろう、この植物の名前は何って興味を持ちながら山を歩くのが好きなんです。植生調査の講座で実際に山の中に分け入って、学長や講師の方から「この樹は何々だよ」とか「ライターで炙るとこうなんだよ」とか教えてもらって。それが本当に楽しくて記憶に残っていますね。

— 早田 実際に森の中を歩きながら「これって何の樹ですか」と尋ねたら気軽に教えてもらえるような機会はなかなかないですよ。講師のみなさんは知識が豊富でユーモアもあって楽しい方ばかりで、貴重な体験だと思います。

## 自然や里山をもつと深く知りたい。

— 早田 樹を切るのとはとても楽しかったですね。保全団体の方が鋸で樹を切ってくれて、倒れた樹に群がってみんなで剪定鋏で刈り込むんです。

— 早田 スタッフの方が手厚く準備してくださるので、何の不安もなく参加できますすね。

— 木戸 ストレス発散にもなるみたい。もちろん里山の保全につながるわけですけど、伐採作業に夢中になつてのが楽しいなあって。

— 早田 女性同士はすぐに仲よくなれたし、男性は寡黙な方が多いんですが、皆さん優しいんですよ。「野イチ」あつたよ」って摘んでくれたり。

北摂里山大学 第11期生  
 里山の魅力を語り合う

# 里山に学ぶ



木戸さんの1枚  
 初夏の陽を浴びながら斜面の下から撮りました。



Kido Yumi 木戸 佑実さん × Hayata Kiwako 早田 紀和子さん

会社員、西宮市在住、昨年から登山を始めたが山頂を極めるというよりも自然や植物を見ながらの山歩きが楽しい

会社員、神戸市在住、子ども向けフランスサークルを運営、里山の風景や草花・森の様子をインスタグラムに投稿



早田さんの1枚  
 森全体が明るく光が心地よくて、この写真が一番です。